

講義名	運動処方演習A			授業形態	
担当教員	吉田 美智子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

近年、週休二日制度と長期休暇の定着がみられる我が国において、余暇の持ち方に自分のライフスタイルにあった個々の過し方が確立されつつある。そういった社会の変化の中で、スポーツに対して従来のように勝敗や記録にこだわることなく、楽しさや手軽さ、そしてファッション性を求める人々が増え始めた。そのことにより、人々のスポーツに対する意識は競技志向から健康志向に変わり、日常生活で手軽におこなえるスポーツ種目に積極的に参加するようになってきた。その代表として、観衆に参加人口を増やしてきているのが、エアロビクスダンスである。ここでは「エアロビクス」という言葉になっているが、本来エアロビクス・エクササイズとは、ダンス系の運動のみならず他の有酸素系運動全体を指し示すものである。授業では前述のエアロビクスダンスを取り上げるが、これは一般的にいわれるダンスとは異なり、ダンス的要素の強い有酸素トレーニングの一つである。「エアロビクス」の正しい知識と動きを修得することにより、多面的な体力づくりが可能となり、心と身体をリフレッシュさせることができる。また、講義ではエアロビクス運動を安全に且つ効果的に実施するために必要な知識（シューズ・床材質・室温への配慮）について学習する。

到達目標

エアロビクスの特性を正しく理解し、性・年齢・体力レベルに応じた運動を適切に選択し実践できるようにする。

提出課題

授業内でその都度課題を提示

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

採点基準を明記した上でテスト実施しその総評をもって個人の成績に反映する

評価の基準

授業実施時間数の1/4以上欠席した者は単位を認定しない。
 授業中の評価：受講態度など...60%
 中間期の評価：実技テスト...20%
 期末期の評価：実技テスト...20%

履修にあたっての注意・助言他

- ・体育館シューズ（運動のできる底の厚いもの）を準備すること。
- ・最初の授業時に、全体の講義内容の説明を行うとともに服装・靴等について指示します。
- ・基本的に準則・準速。余裕時の目標は認めない。
- ・「健康運動実践指導者」の資格取得の必須科目である。

「授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと」

教科書

参考図書

その他

必要に応じて資料等を配布する。

授業計画

- 1 回目：受講にあたっての注意事項とエアロビクス基礎理論「有酸素運動の特性と効果・目標心拍数」エクササイズと安全管理
- 2 回目：基本運動、リズム、呼吸法・フットパターン・アームパターン
- 3 回目：ローインパクトエクササイズの実際
- 4 回目：ローインパクトエクササイズの実際
- 5 回目：講義：エアロビクス基礎理論「エネルギーの発生機序とエアロビック運動について」
- 6 回目：ハイインパクトエクササイズの実際
- 7 回目：ハイインパクトエクササイズの実際
- 8 回目：講義：最大酸素摂取量と無酸素性作業閾値の意義と評価法
- 9 回目：ストレッチングの理論と実務
- 10 回目：健康維持増進のためのエアロビクスエクササイズの実際
- 11 回目：健康維持増進のためのエアロビクスエクササイズの実際
- 12 回目：健康維持増進のためのエアロビクスエクササイズの実際
- 13 回目：指導実践に必要なテクニックの解説と実際
- 14 回目：指導実践のための音楽の特徴とDJingの実際
- 15 回目：指導実践のための音楽の特徴とDJingの実際

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

有酸素運動などの効果について調べておくこと（2時間程度）
 エアロビクスの基礎ステップなどを練習しておくこと（2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は、子どもから高齢者など幅広い世代に応じた運動指導に関する基礎知識・コミュニケーション技法を身に付けることができる。また、集団指導法を通してリーダーシップ能力を養うことができ、かつ、運動指導に関する企画運営能力を養うことができる。以上のことから、ディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

大手スポーツクラブで30年以上フィットネスインストラクターとして活動後、現在は自社スタジオで指導を行っている

備考